長洲町水道事業経営戦略

2021年度~2030年度

（概要版）

令和　3　年（2021年）　3　月

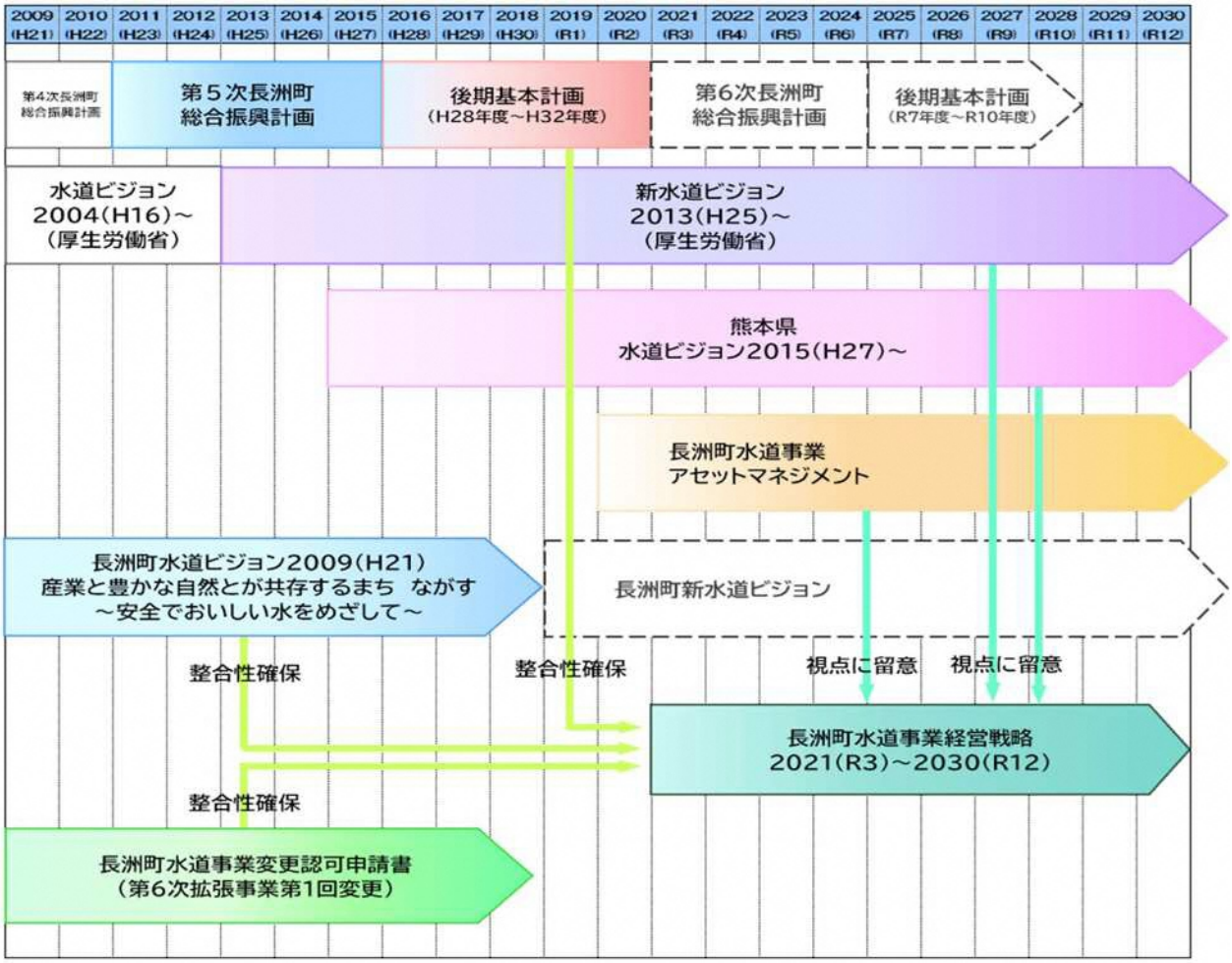
長洲町水道課

1．経営戦略策定の趣旨

水道施設の多くが、順次耐用年数を迎える中、更新需要は今後増大していくにも関わらず、人口減少等により料金収入が減少しており、水道事業を取り巻く経営環境は年々厳しさを増しています。そのような中で将来にわたって安定的に事業を継続していくため、中長期的な施設等の更新需要を検討したうえで、具体的な経営の基本計画としての**『長洲町水道事業経営戦略』**を策定しました。

◆　**計画期間は2021（R3）年度から2030（R12） 年度までの10年間です。**

長洲町水道事業経営戦略の位置付け



2．水道事業の現状

2.1 水道事業の概要

（1）事業の現況

本町の水道事業は 1959(S34)年12月に給水を開始して以来、現在までに6次にわたる施設の拡張事業に取り組んできたことで、 2019(R元)年度末現在の給水人口普及率は98.8%となっています。

今後、管路や水道施設の耐震化や更新に要する費用が多額となることが見込まれるため、これらの経費を勘案した上で、安定的な経営を可能とするため、必要に応じて新料金体系を検討する必要があります。

（2）これまでの主な経営健全化の取組

〇広域化の検討

県は、2018（H30）年5月に市町村等の実施する水道事業の基盤強化を推進し、水道水の将来にわたる安定的な供給を図るため、「熊本県水道事業基盤強化推進協議会」を設立し、本町は有明地域協議会において、広域連携に係る各手法の実現の可能性等について検討を行っています。

〇職員数の削減

長洲町財政健全化計画に準じ、 2010（H22）年度に 8名であった職員数を2011（H23）年度からは 7名に、また、2020（R2）年度からは一般職の非常勤職員（1名）の削減を実施しました。

（3）経営比較分析表を活用した現状分析

1）経営の健全性・効率性について

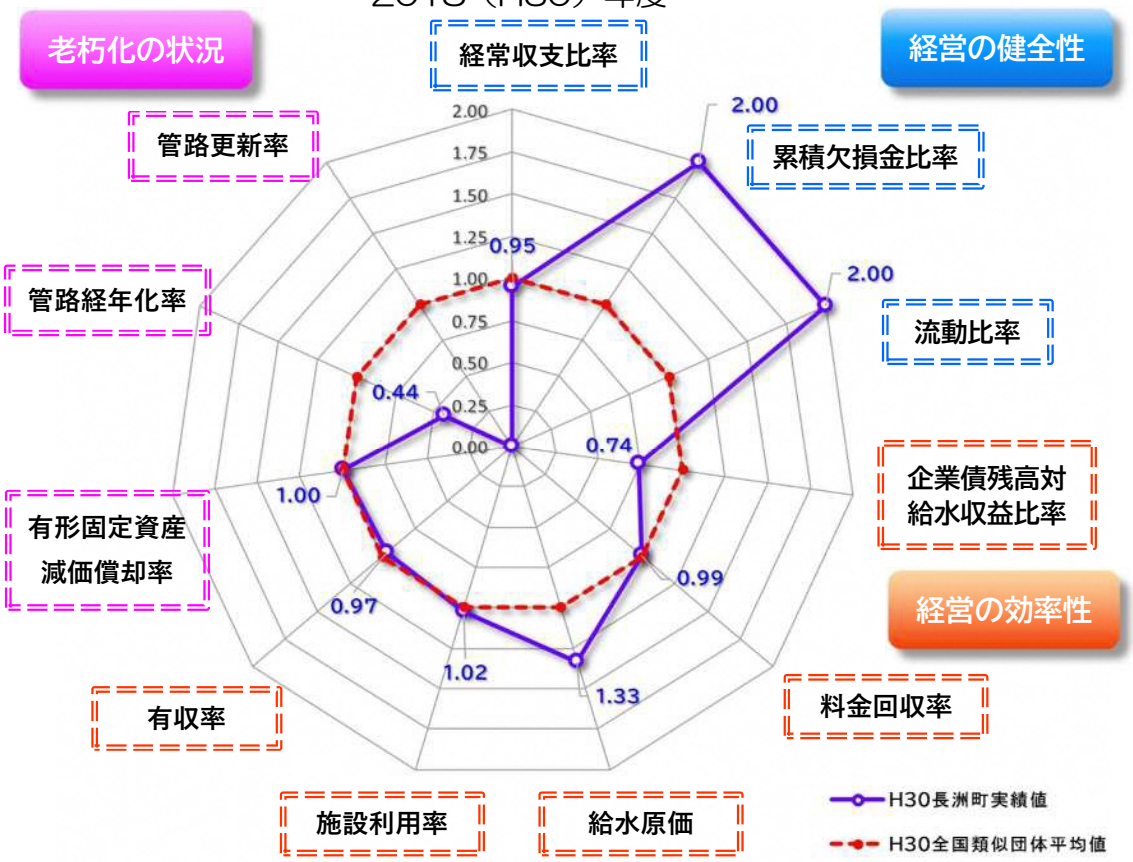
経営の健全性に関する指標から、本町水道事業の経営は良好であるといえますが、効率性に関する指標からは、今までの企業債残高に対し、料金収入の割合が少ないことを考慮し、計画的な更新事業の実施や経常収支とのバランスを取りながら経営を行う必要があります。

2）老朽化の状況について

本町水道事業においても年々経年化管路や施設が増加しており、管路の更新と耐震化は進んでいない状況です。今後は計画的に管路や施設の更新と耐震化を進めていく必要があります。

3）経営比較分析のまとめ

経営分析レーダーチャート
2018（H30）年度

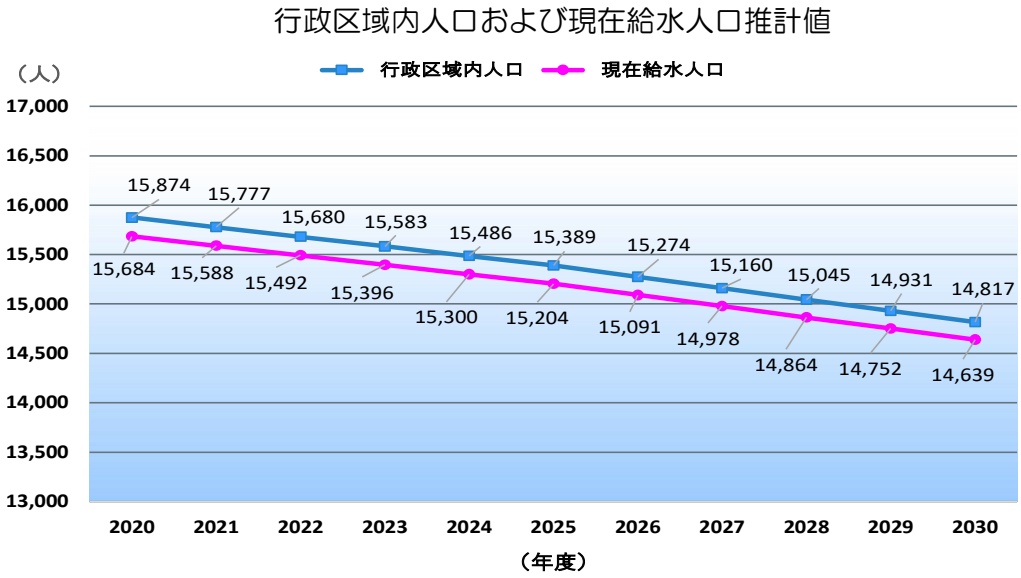


※レーダーチャートは、類似団体平均値を1.0とし外側に広がるほど良好な状態を示します。
青色数値は類似団体平均値に対する本町の指標値を示します。

2.2 将来の事業環境

（1）給水人口の予測

給水人口の予測結果は、少子高齢化の社会情勢を受け減少傾向となることが予測されます。

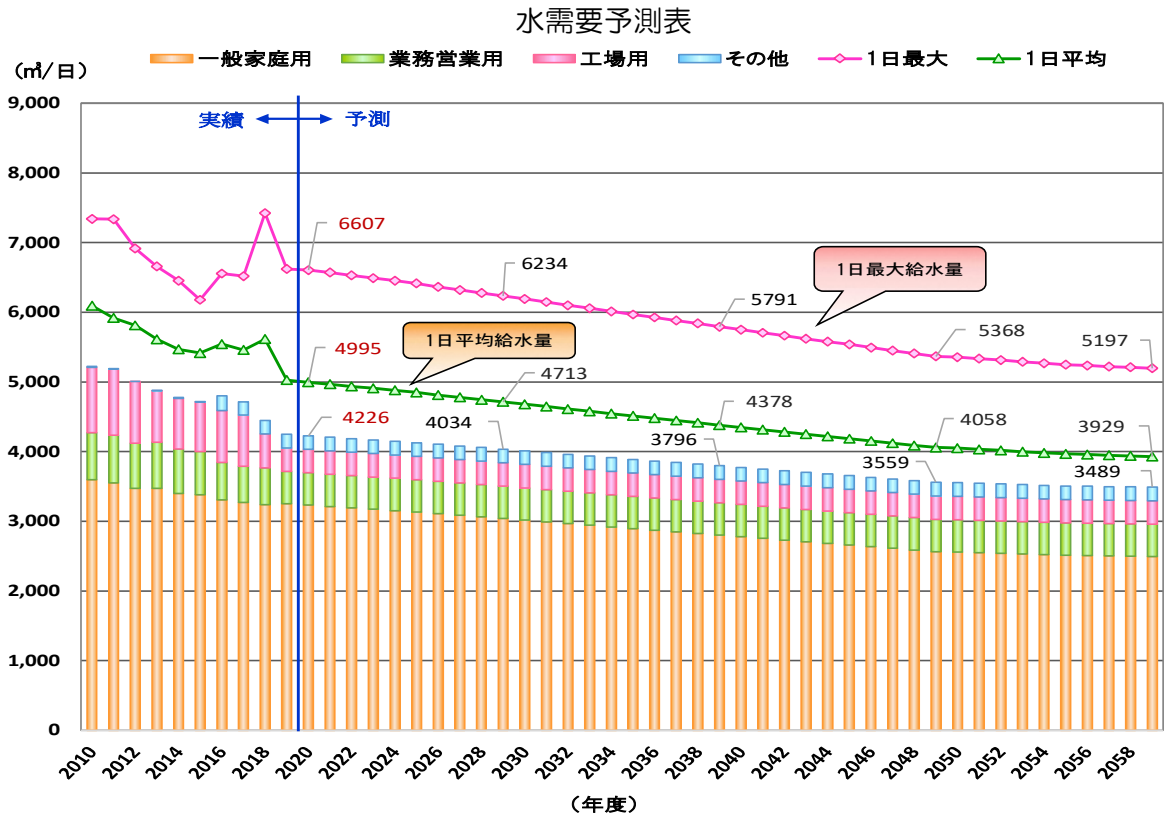


※　行政区域内人口　：　長洲町人口ビジョン推計値に2019（R元）年度末現在の行政区域内人口実績値との比率を乗じて算出。
　　現在給水人口　：　過去の実績より最大値の普及率を乗じて算出。

（2）水需要の予測

水需要の予測結果は、給水人口の減少が大きく影響して減少傾向となることが予測されます。

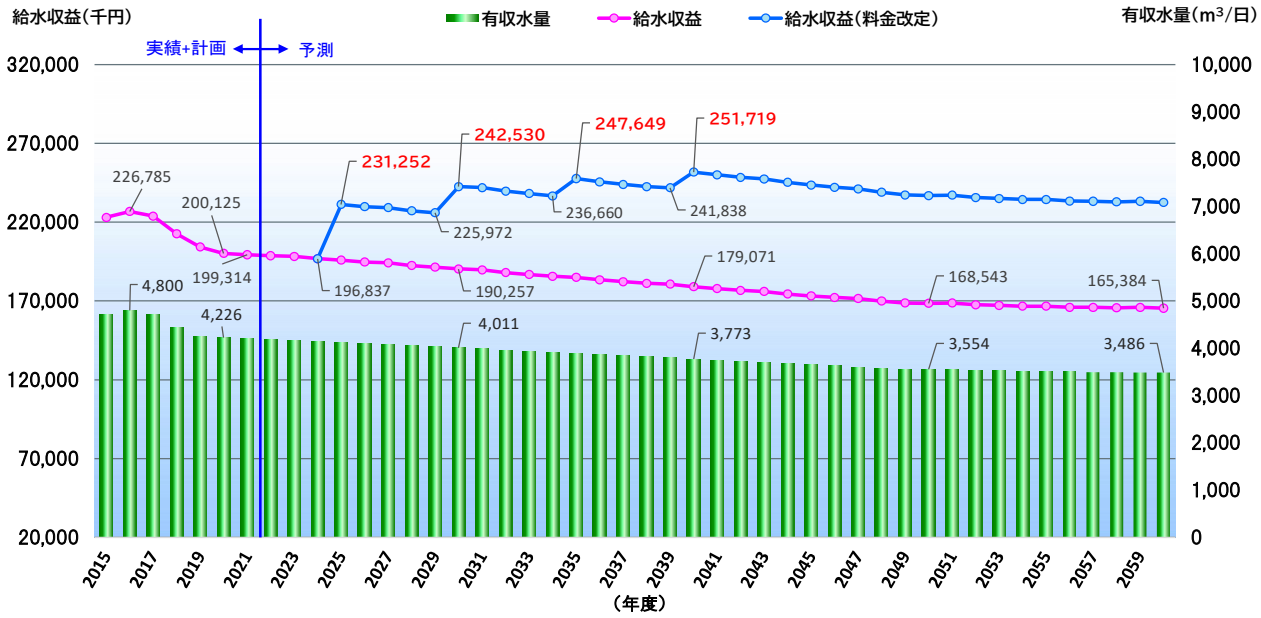
これにより、水道事業経営の財源である料金収入が減少するため、安定した事業経営を持続していくうえで厳しい環境となっていきます。



（3）料金収入の見通し

水道事業の給水収益は、水需要予測と同様に減少傾向であり、今後もこの傾向が続く見込みで、施設の老朽化に伴う更新および耐震化費用の増加による一層厳しい経営環境となっていく状況を踏まえ、本経営戦略では、 2025（R7）年度に現行の水道料金から 18%、 2030（R12）年度に 2029（R11）年度の水道料金から 8%の増額改定を見込み給水収益の見通しを立てています。

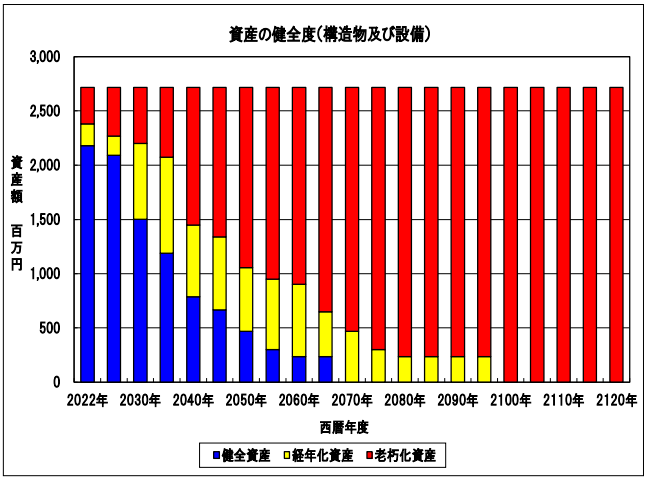
有収水量と給水収益の予測表

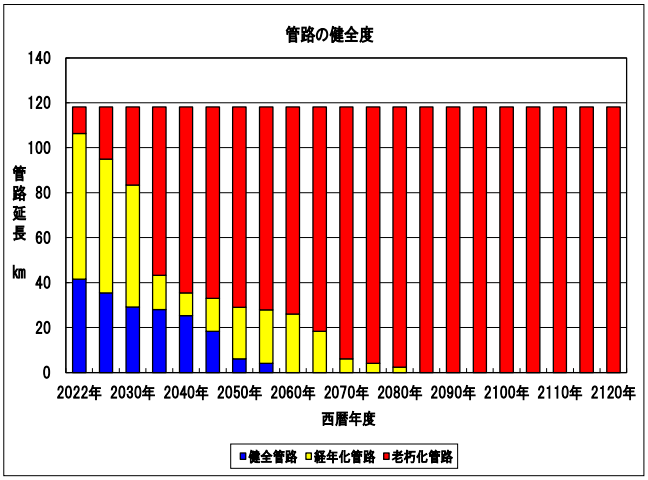


※赤文字は料金改定年度の給水収益です。

（4）施設の見通し

構造物・設備および管路において更新を全く行わなかった場合、年々、経年化資産・経年化管路（経過年数が法定耐用年数の 1.0～ 1.5倍の資産）や老朽化資産・老朽化管路（経過年数が法定耐用年数の 1.5倍を超えた資産）の割合が高くなり、事故や故障等のリスクが増え水道の安定供給が困難な状況になると予想されます。





このような状況を改善するには、水源地および浄配水場等の主要施設については、水道の安定供給の持続のために、日頃の維持管理を適切に行い、必要に応じた修繕等を実施する必要があります。管路については、計画的な老朽管路の更新事業（特に基幹管路を優先的に）を進めていく必要があります。

（5）組織の見通し

現在、1課2係の組織体系で行っています。

職員数は水道課長、課長補佐、経営監理係 2名、工務係 3名の 7名体制で行っており、今後も現行人数を維持し、事業経営において安定した維持管理体制の持続のために、今後官民連携の検討を行っていきます。

3．経営戦略の基本方針

3.1 経営の基本方針

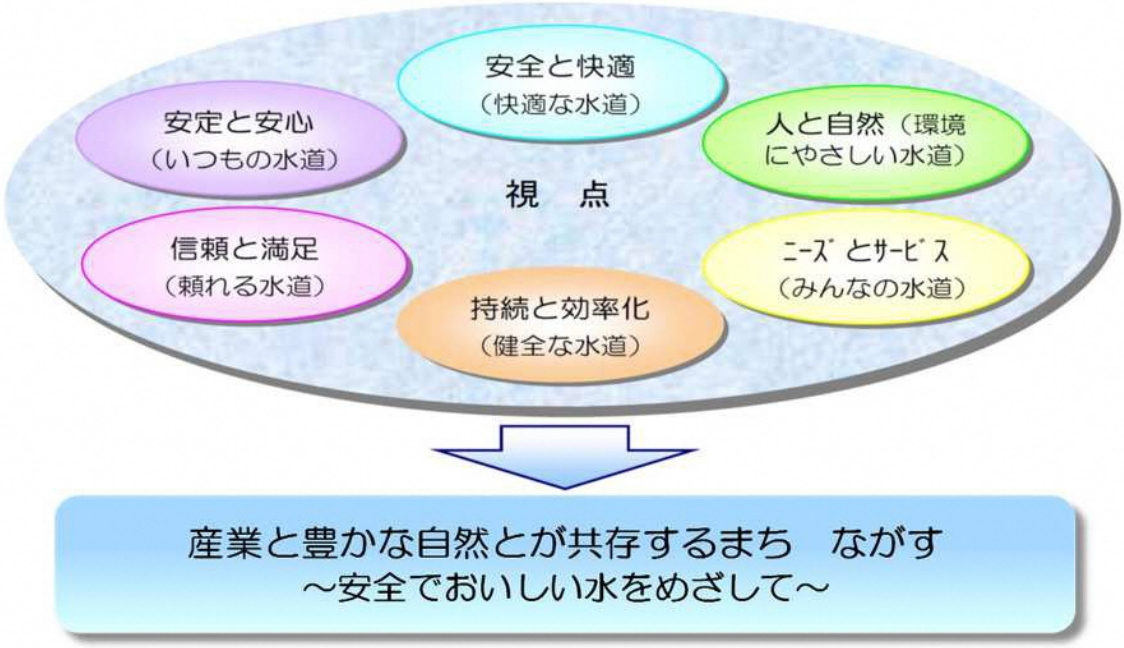
〔基本理念〕

本町水道事業は、地方公営企業としての立場や責務から、「産業と豊かな自然とが共存するまち ながす～安全でおいしい水をめざして～」を基本理念(将来像)に、長期的な視点から現状と将来想定される水道事業が抱える課題の解決を目指していきます。

〔基本方針〕

この基本理念の実現のために6つの基本方針を掲げています。

水道事業における基本方針



※長洲町水道ビジョン（H21.3）より

＜安全＞　安全で良質な安心して飲める水道

1 安全でおいしい水の供給　　～快適な水道～

2 安定した水道システムの構築　　～いつもの水道～

＜強靭＞　危機に強く安定供給ができる強くたくましい水道

3 信頼性の高いライフラインの構築　　～頼れる水道～

＜持続＞　健全な経営による未来を見据える水道

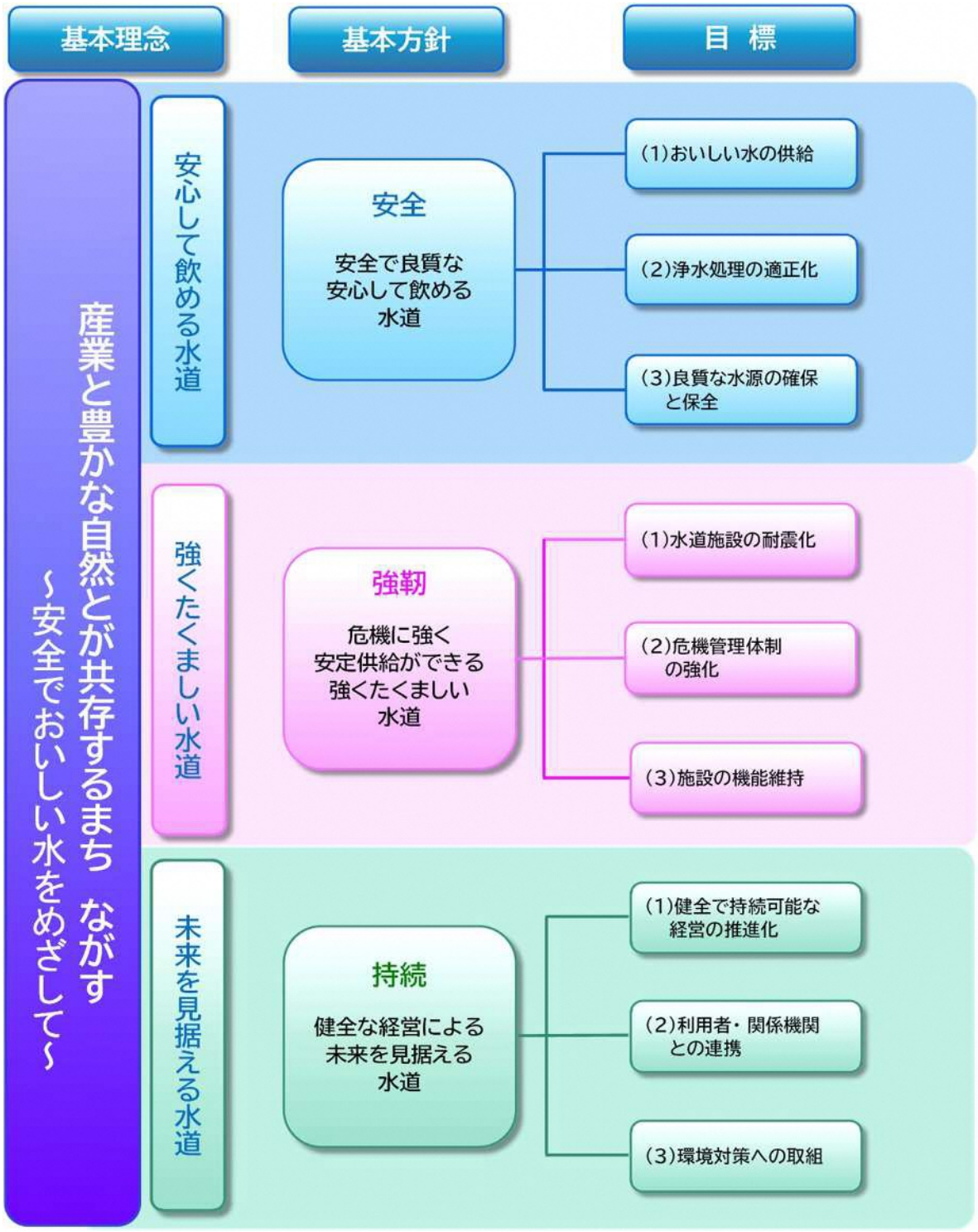
4 健全で持続可能な事業経営　　～健全な水道～

5 利用者へのサービス向上　　～みんなの水道～

6 環境とエネルギー対策への取組み　　～環境にやさしい水道～

3.2 経営方針

水道の将来像の実現を目指すために具体的な目標を以下のとおりとします。



4．投資・財政計画

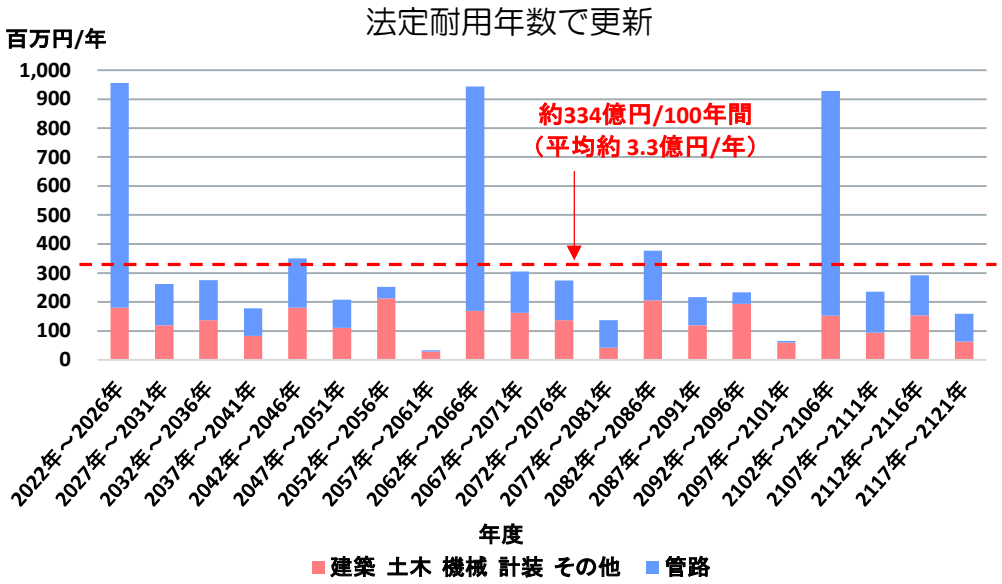
4.1 投資・財政計画（収支計画）

（1）投資計画

アセットマネジメント手法を用いて更新需要を試算しました。

➢ 法定耐用年数で更新した場合

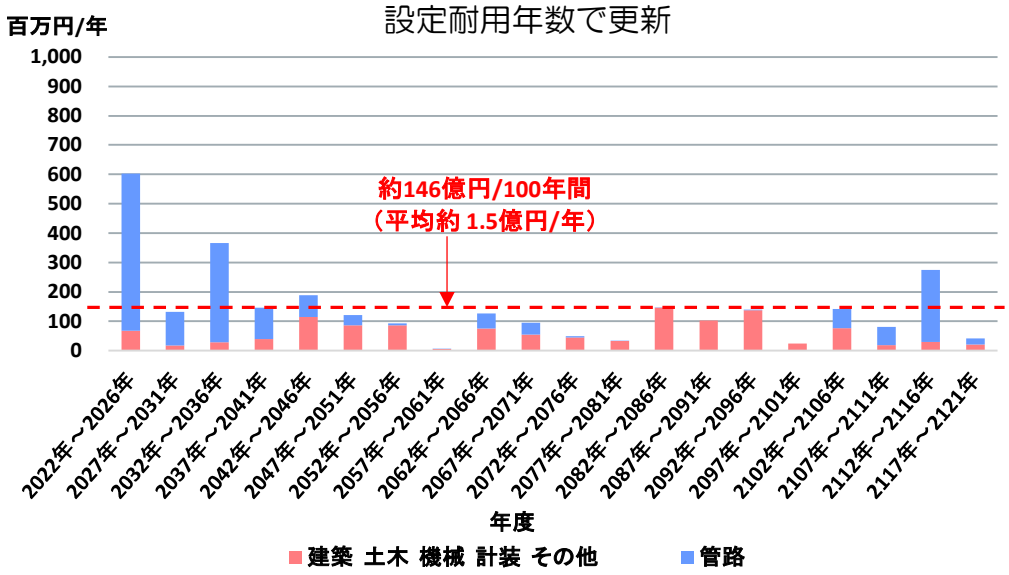
年間平均約 3.3億円の更新需要となります。



※5年毎の平均値を表示しています。

➢ 設定耐用年数で更新した場合

法定耐用年数で更新した場合と比較すると各資産の更新年数が伸びることで更新需要を年間平均約 1.5億円に抑えることができ、全体的に平準化が図られます。



※5年毎の平均値を表示しています。

➢ 10年間の投資計画

アセットマネジメント手法を用いて算出した年間約 1.5億円（10年間で約 15億円）の事業費を計上します。

○投資の目標

✦ 老朽化施設・設備の更新
✦ 管路の更新および耐震化

【老朽化施設・設備の更新】

- 腹赤浄水場、髙田浄水場、梅田浄水場、宮野配水池の老朽化施設の更新を行います。
- 電気・機械設備は、日常のメンテナンスを行い、延命化を図り更新整備を進めます。
- 土木、建設施設は、施設統廃合を考慮した更新整備に努めます。

【管路の更新および耐震化】

- 管路に関しては、新設および年々増加していく老朽管を効率的に更新していくため、管種や布設年度、基幹管路等を考慮した導・配水管整備計画を策定し、これを基に更新予定管路の優先順位を決め、効果的な耐震化整備を進めます。

施設整備年次計画

	事業計画概要		2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11	2030 R12
計画策定等業務	計画策定業務	水道ビジョンおよび施設等更新計画策定業務	■									
		配水管布設替工事設計		■								
		水道施設台帳整備（施設台帳整備・管路台帳更新）	■									
導・配水管布設替等更新計画	導・配水管布設替等工事計画	導・配水管布設替更新	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		配水管付帯施設更新（仕切弁設置等）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		水管橋・添架管塗装等	■	■	■		■				■	
		その他管路工事分			■	■	■	■	■	■	■	■
浄水場等施設等更新計画	浄水場等施設等工事計画	腹赤浄水場更新					■	■	■			
		髙田浄水場更新	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
		梅田浄水場更新		■			■	■			■	
		宮野配水池更新	■		■			■				
		水源地更新	■								■	
その他	その他事業	その他工事	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
事業費（百万円）			163	75	145	116	126	188	171	144	293	79

※事業費は、調査、設計、工事費等を含みます。

○財源の目標

✦ 料金改定について、計画期間内における検討
✦ 適切な企業債の充当率の検討

【料　金】

- 給水収益は、人口減少による水需要の減少に伴い減少する見込みで、将来を見据えた料金体系へ需要者への影響を抑制しつつ、安定的に必要な住民サービスの提供を維持するため、経費縮減等による経営努力により収支の均衡を図り、2021（R3）年度以降、収支均衡を図るために料金水準について検討を行っていきます。

【企業債】

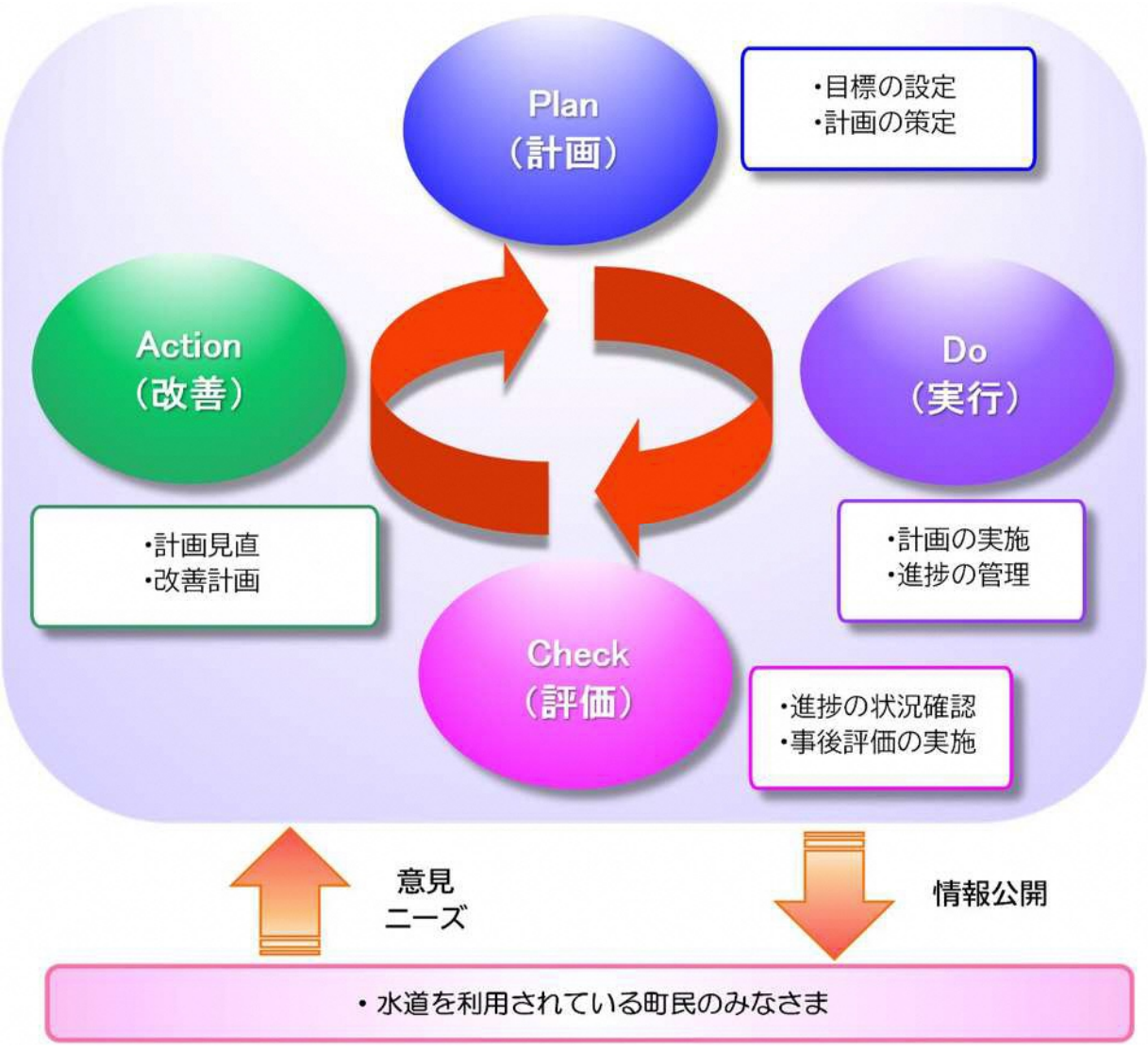
・企業債は、資金残高の状況を見据えつつ、借入率を検討し、2021（R3）年度から適正な借入額での起債を行い、「世代間負担の公平性」を図り将来負担の平準化を図っていきます。

5．経営戦略策定の事後検証及び更新等

5.1　計画の推進と点検・進捗管理の方法

経営戦略の計画推進のため、 3～5年ごとに目標指標の達成状況を把握することで進捗管理を行います。今後の事業は、目標達成のため経営戦略を基に実施していきます。

PDCAサイクルにより業務の適切な進捗管理を行い、計画的かつ着実に経営戦略を実現できるように努めてまいります。



経営戦略PDCAサイクル

5.2　経営指標

目標とする指標を示します。

視点	指 標	2018年度 H30 （実 績）	2025年度 R7 （目 標）	2030年度 R12 （目 標）	算 定 式
経営の健全性	経常収支比率(%)	103.09	100%以上を維持		経常収益÷経常費用×100
	累積欠損金比率(%)	0.00	現状維持		当年度未処理欠損金÷(営業収益－受託工事収益)×100
	流動比率(%)	784.65	562.84	413.77	流動資産÷流動負債×100
	企業債残高対給水収益比率(%)	542.47	444.67	445.64	企業債現在高合計÷給水収益×100
経営の効率性	料金回収率(%)	97.73	100%以上を維持		供給単価÷給水原価×100
	施設利用率(%)	56.13	現状維持		1日平均配水量÷1日配水能力×100
	有収率(%)	79.20	85%以上	86%以上	年間総有収水量÷年間総配水量×100
老朽化の状況	管路更新率(%)	0.00	0.60	0.60	当該年度に更新した管路延長÷管路総延長×100
	管路経年化率(%)	33.90	48.00	55.00	法定耐用年数を経過した管路延長÷管路総延長×100

長洲町水道事業経営戦略（概要版）

長洲町役場水道課

〒869-0112
熊本県玉名郡長洲町大字姫ケ浦2番地
TEL 0968-78-0126

発行　令和3年3月